

# 「のめり込み」と「闇スロ」に対策

## 遊技産業の視点 Weekly View

### 日工組と日電協、それぞれ会見

日本遊技機工業組合（理事長・金沢全求氏）は18日、東京都中央区の組合事務局で「のめり込み対策」に関する記者会見を行った。

金沢理事長は、のめり込み対策としての遊技機開発について言及。パチンコに対する世間のイメージが悪く、ファンも大幅に減少している現状に触れ、この原因を「玉単価が高いがゆえに大衆娯楽として遊びづらくなったこと」と指摘。環境に適した真の大衆娯楽として手軽に安価に遊べる機械の提供を促進するために、射幸性を抑えたパチ

ンコにとどまらず、セブン機のものにもドラム型や電役、羽根物など多種多様な機械づくりに注力すると述べた。

また同日、日本電動式遊技機工業協同組合（日電協、理事長・里見治氏）と回胴式遊技機商業協同組合（理事長・伊豆正則氏）が、東京都台東区の日電協事務局で「闇スロ撲滅宣言」に関する取り組み状況について説明会を開催した。

今年の1月に開かれた遊技業界関連6団体代表者会議で「回胴式遊技機が闇スロに流出することのない仕組み作りを遊技業

界全体で取り組む」ことが決定。これを受けて、パチンコホールや防犯関連団体に「闇スロ撲滅宣言ポスター」を店内や地域の掲示板に掲示することを要請。さらに、より具体的でスピーディーな情報提供に向け、闇スロ情報を収集する「闇スロ撲滅宣言」サイトも改良した。加えて、8号営業店舗（ゲームセンター）からの流出を防止するため、8号業界の関連団体とも協議をはじめめるほか、根本的対応として闇スロ店に設置されても動作しないパチスロ機の研究を進めていくとした。

（ニュース提供・LOGOS×娯楽産業）

LOGOS

岸本 正一

ホールマーケティングコンサルタント  
LOGOSプロジェクト上級研究員

厳しい業況が続くパチンコホール業界だが、この状況を打破するために有効なマーケティング活動がなかなか見えてこない。私も20年以上、この業界のマーケティングを研究し続けているのだが、業界全体を見渡してもまだまだマーケティングが活発化していないと感じざるを得ない。

かつて某著名シンクタンクの有名コンサルタントが「パチンコ業界ではマーケティングなど機能しない」と言っていた。この人はもう引退しているが、この考え方に当時も現在も大きな違和感を抱いている。理由は単純だ。仮にこれまで有効なマーケティング手法が皆無だったとしても、それがホール業界においてマーケティングが機能しないことの証明にはならないからだ。また、すべてのホールがうまく実行できないからといって、そのマーケティング手法が限定的あるいは例外的なものであると考えるのも間違っている。

このような状況であるためか、なにやら有名な学者が過去に発表したマーケティング理論がホール業界では特に持てはやされるように感じる。個人的には「ランチェスター理論」や「孫子の兵法」をいきなりホールマーケティングに適用しようとするには明らかに無理があると感じている。

そもそも、学者的立場ではなく、ホールの現場で商売をする位置に立てば、具体的戦略レベルに展開できないマーケティング理論など何の役にも立たないことが分かる。消費者に向き合い、何を求めているのか、何を伝えていけばよいのか、何を感ぜさせていけばよいのかという具体的な営業活動案をイメージできなければ、いかに世界的、歴史的に著名な理論や戦略も、ホールマーケティングの現場では「机上の空論」に過ぎないからだ。

だからこそ、これを専門とする者は、市場活性化のために有効と思われる手立てを前向きに考え、業界に発表すべきであるし、ホール企業においてマーケティング業務を担当する人たちも然り。自らを現在のマーケットに對峙させ、具体的なイメージを伴った戦略を生み出す姿勢を持ち続けなければならない。

きしもと・しょういち 1963年生まれ。元SEの経験を生かし、遊技場の集客メカニズムを論理的に整理・研究する傍ら、全国のパチンコホールを対象にコンサルティングを行う。雑誌への連載やテキストの出版、セミナーでの講演なども手掛ける。オペレーション代表。

実践的マーケティングを機能させるために

## チャリティーゴルフで闘病支援

### ピックアップ

病気と闘う子どもたちへの支援を目的に2009年からはじまったチャリティーイベント「ザ・レジェンド・チャリティープロアマトーナメント」が5月9、10日の2日間、千葉県佐倉市の麻倉ゴルフ倶楽部で開催された。

当日は、大会実行委員長を務めるプロゴルファーの青木功氏、元プロ野球選手の王貞治氏、トランペットの日野皓正氏の呼びかけに賛同したプロゴルファー28人、著名人28人、一般（アマチュア）56人が参加。ギャラリーも6000人を超える来場者でにぎわった。

同ゴルフ大会は、「ゴルフを通じて社会貢献を」という趣旨に賛同するスポンサー各社をはじめ、出場するプロゴルファーや著名人の協力で開催。賞金をかけたプロの試合において、アマチュアもプロと同組、同条件でプレーするという、これまでにない形式のプロアマトーナメントとなっている。

なお、この取り組みには、日本医師会、日本赤十字社が後援。遊技業界からも、遊技機メ



2009年から継続開催され、その寄付金額も3億円に届く勢いだ

ーカーのKYORAKU吉本、ホールディングス、セガサミーホールディングス、平和、ニューギン、藤商事（イベントHP掲載順）が協賛した。

プロの部は、初日7アンダーで、2日目もイーグル2つを含む7アンダーで回り、倉本昌弘氏、室田淳氏、藤田寛之氏、宮里聖志氏、藤本佳則氏の5選手を1打差で制した奥田靖己選手が14アンダーで優勝。著名人の部はミュージシャンの前田巨輝氏（TUBEのボーカル）が16アンダーで、一般アマの部は李大殖氏が25アンダーでそれぞれ優勝した。

あいさつで大会実行委員長の1人である王氏は「この大会も今年で7回目を迎えた。皆さんとの距離も近く感じていただけようになったのではないだろ

うか」とコメント。「これからも皆で力合わせてこの大会を盛り上げていきたい」とし、来年の開催に協力を呼びかけた。

年に一度のペースで継続開催されるこのチャリティーイベントは、病気の子どものための支援、小児医療の中核となることも病院への支援を目的に開催。また、11年の東日本大震災以降は、被災した子どもたちや震災孤児たちを支援する団体や基金など、支援対象を拡大。幅広く子どもたちを支える取り組みに寄与している。

また、選手の賞金や入場券収入、チャリティー販売収入の一部など09年からの合計寄付金額は約2億5000万円に達しており、今大会も直近の集計では2000万円あまりの規模にのぼることが試算されていた。

### 業界団体だより

## 同友会 新代表理事に東野昌一氏が就任

パチンコホールの経営者有志で組織する日本遊技産業経営者同友会（同友会、代表理事・松田高志氏）は13日、東京都台東区のオーラムで「第10回定時社員総会」を開催。役員改選において新代表理事に、東野昌一氏（前副代表）を選任した。

東野新代表は就任に際し、「全力を尽くして現在の難局を

乗り切りたい」と、強い意志を表明。遊技業界に対する世間の厳しい目があるとし、順法営業はもとよりコンプライアンスに配慮し、のめり込み問題、値引き対策など業界と連携して解決に努めていくとした。また、同友会はホール経営者の集まる会であるという特色から「お互いに勉強に励み、それぞれが問題

テーマを持って、次世代、経営の安定に役立つよう活動していきたい」と展望した。

夕刻からの懇親会には、行政から警察庁生活安全局保安課大門雅弘課長補佐が、また業界関連団体を代表して、日本遊技関連事業協会の庄司孝輝会長と日本遊技機工業組合の金沢全求理事長が来賓として臨席。祝辞



を述べたほか、全日本遊技業協同組合連合会の大野春光副理事長が乾杯の音頭をとった。

東野新代表（写真手前）が若い力で組織を牽引していく